

【東京神学大学女性教職フォーラム②】

わたしの伝道実践

篠 田 真紀子

はじめに…

「神の賜物と招きとは取り消されないものなのです。」ローマ11：29

今回、私が発題者の一人として選ばれたのは、結婚、出産、子育てをしながらの伝道牧会について語って欲しいということだと思います。けれども、それはほとんど苦労話になってしまうだろうし、今回はその時間も与えられていません。そこで、一つのことだけを申し上げます。それは自分が、神の召命を受けて伝道者とされたという確信をどこまで持ち続けられるか、ただこの一点です。もっと正しく表現するならば、それは、神が、どんな状況をも超えたところにおいて、私を伝道者として召す故に、私は今、牧師である、ということになります。それはまた、上記の御言葉が示していることなのです。

この御言葉は、牧師として自ら挫折することを考えていた時に、偶然（神にとっては必然）、礼拝出席くださった東神大の同級生の父上（牧師）より頂いた聖句です。私は、神の「主語性」（Ⅰヨハネ 4：10、ヨハネ15：16など）を発見したことから、伝道者への召しを受けました。この御言葉はそのことを私に思い起こさせてくれたのです。召命は、どこまで行っても自分自身から出てくるものでも、保持しているものでもないということを改めて知らされたのです。

今から述べることは、「わたしの伝道論」ではありません。私は、未だ自分

が、どんな伝道論をもっているかさえ、よくわからないのです。ただ、これまで歩んできた中で経験した出来事を振り返りつつ、どのようにして、日々伝道へと押し出されてきたか、語ることに押し出されてきたか、という「わたしの伝道実践報告」です。

I 献身と恋愛と結婚

① 相手の問題

神学校生活の中でも、恋多き者であったかと思います。しかし、私を伝道者にしてくれる人は、なかなかいませんでした。私は、独りで伝道者として立つ事に不安を覚え、自信もありませんでした。何より、罪を犯すことになるのではないか、ということが一番心配でした。だから、伝道者となるために結婚すること＝パートナーを与えられることを主に願いました。私は、結婚は神の秘儀であると信じています。召してくださった方は、その召しのための必要を必ず満たしてくださる方であるからです。

それでも、結婚する相手は他人です。キリスト者であっても、育った教会、見て聞いて経験してきた信仰生活は全く違うのです。結婚する前、また結婚後早いうちに、お互いの教会観、牧師像、牧師夫人像、互いにどのような役割を担い合うのか、何を期待し、何を委ねあうのかなどを具体的に語り合っておいたほうが良いでしょう（自らの失敗からの助言です）。目指す所が一致すれば、これ以上心強いパートナーは他にいません。

② 何のための結婚か

恋は盲目です。特に女性は愛する人のことを思うと、その他はどうでもよくなるのではないのでしょうか？しかし、主に召された者は、自分が“誰に献身したのか”を忘れてはなりません。そして結婚するからには、パートナーと共に、“誰に献身したのか”を忘れてはなりません。

いずれにせよ、普通の女性がするように、夫に尽くすことはできません。それは、結婚生活の上で、夫婦が共に乗り越えなければならない最初の壁である

と思います。

③ 家族の恵み

これまでに、逃げ出したいこと、辞めたくなることは多々ありました。しかし、それを踏み留まらせる支えの一つとして家族があります。本来ならば、伝道の苦しみも喜びも共にできる…と言いたい所ですが、私の場合、まだそこまではいきません。しかし、家族は、確実に、私の伝道の範囲を広げています。夫、子ども、犬、それぞれの関係を通して出会いがあります。出会いがあるところには、必ず伝道のチャンスがあるのです。だから、家事や育児やその他わずらわしいことを負わなければならないにもかかわらず、家族は一人でも多いほうがよいと思っています。

II 説教と牧会

① 現場の声、現場の言葉

赴任してまず感じることは、信徒と牧師の間のギャップです。神学校卒業してすぐの頃、語りたいことは沢山ありました。しかし、これこそ福音！ これこそ真理！ と思って懸命に語っても、何か空回りで伝わらないのです。それは、信徒に聞く耳がないのではなく、自分自身が、遣わされた教会に属する者となっていなかったのです。神学校で学んだ知識、聞いた言葉、それらがそのまま生かせるほど、伝道は簡単ではありません。一日も早く、生活の座、思考思索の座をキャンパスではなく、また母教会ではなく、遣わされた教会に引越してできるか、それが伝道の歯車がかみ合い動き出すカギのように思います。

また若い牧師（私は赴任当時27歳）を訪ね、悩みや相談、話をしにくる高齢の信徒はまずいません。自分から訪ねるのです！ そして彼らの生活の場から、生の声、そこでの「うめき」を聞くのです。そうすれば必ず、そこから語るべき御言葉が響いてきます。

② できることとできないこと～女性らしさを賢く用いる～

ここで言う「女性らしさ」とは、容姿や、言動、立ち振る舞いのことではありません。神が、女性に最初から、しかも特別に備えてくださっている様々な

恵みのことです。もちろん、子どもを宿すことができることもその恵みの一つですが、それに付随して、例えば、環境に順応しやすい基本的な肉体の強さ、二つ、三つのことを同時に考えたり、行ったりできる才能…こういう賜物は、神が女性に特有なものとして、最初から備えてくださっている宝です。これを大いに、そして賢く用いるのです。

③ 台所の神学～ながら黙想～

②で記した賜物を活用し、何をしている時にも説教黙想ができることは、女性教職の特権だと思います。結婚生活は、十人十色です。そして伝道牧会も教会によってそれぞれです。説教黙想のスタイルは、これ！という一つのお手本のようなものは存在しないと思ったほうがよいでしょう。それは置かれた生活の座において、自分で確立しなければならないものなのです。当然、仕える場所や、家族のスタイルが変われば、説教黙想のスタイルも変わるということになります。しかし、どんな環境の変化にも順応できる力を、召してくださった神は特別に備えてくださっている、と私は信じています。

④ 収穫は多い？

伝道の実り、それを受洗者が起されることとするならば、それは忘れた頃にやってくる出来事というのが現実です。自分の使命は、種をまくことであり、刈り取ることではないことを思い知らされる日々でした。しかし、それは常に、傲慢になる自分を、神の御前に謙虚になるように引き戻してくれる現実でもありました。

それに反して、毎日の生活で収穫する豊作物といえは、訃報、悩み相談、とにかく生きていれば誰でもが突き当たることになる人生の出来事あれこれ、牧師は、教会員とその他、教会を頼りに訪れる電話、メール、訪問者…多くの人生のスクランブル発信を毎日受けて過ごします。毎日が、緊急事態発生であり、特別な試練の日々のようなものなのです。

時に、日々起こる元気をそがれるような出来事に、うんざりし、何のために牧師になったのか？ と考えさせられることが多々あります。しかし、それら目の前に起こる一つ一つの出来事に押し流されてはなりません。神は、確かに、

神の国の働きのために私を召してくださった…ただそのことだけを、信じて歩むのです。

⑤ 気をつけていること

これは、説教・牧会以前のことなのかもしれませんが、衣食住、これが常に整っていないと、伝道、牧会はスムーズにいきません。

* 食事のこと…伝道牧会に追われる日々を過ごすと、まず、ないがしろにされるのが食事です。けれども、とにかく健康でないと伝道牧会はできません。自分だけでなく、それは家族も同じことです。また、体の健康は、心の健康の助けにもなります。

私の実践：「まごはやさしい」＝まめ、ごま、わかめ（海草）、野菜、魚、しいたけ（きのこ類）、いも…一日の食事の中にこれらが必ずあるように努めています。

* 睡眠のこと…とにかく寝ることです。疲れたら寝るのはもちろん、悩んだ時は寝ます。そうすると（精神の）病気にならないそうです。

* 服装のこと…礼拝はもちろん、司式をする時には常にガウンを着用します。女性は、特に葬儀の時など、誰が司式者かわかりません。

III 鎌倉泉水教会での実践

「風向きを気にすれば種は蒔けない。雲行きを気にすれば刈り入れはできない。…朝、種を蒔け、夜にも手を休めるな。実を結ぶのはあれかこれかそれとも両方なのか、分からないのだから。」 コヘレトの言葉10：4，6

① 教会の現実～教会の外にあること～

仕えて8年目となる鎌倉泉水教会は、神社仏閣の多い（神社54、寺114）歴史ある観光地鎌倉の東の端に位置しています。駅から遠く、市外から市街地への道路は限られ、休日や神社仏閣の行事、イベントなどで年中渋滞します。鎌

倉市は、東京の通勤圏ではおそらく最も高齢者の多い町でしょう。人口171,512, 世帯70,286, 65歳以上40,884 (23,7%)。そして教会が位置する旧鎌倉地域の人口46,518, 世帯19,383, 65歳以上12,778 (26,9%) で、市内でも最も高齢者の多い地域となっています。

鎌倉市は、神社仏閣の町でありながら、キリスト教会も非常に多くあります。カトリック、プロテスタント諸派17教会、その内、日本基督教団所属が5教会です。鎌倉泉水教会以外の教団の教会は、いずれも駅から徒歩圏にあり、現住倍餐会員130～700名という大教会です。

また、町の中心から鎌倉泉水教会へと続く主要道路沿いには、モルモン教会やエホバの証人などが、近年会堂を構え、活発に伝道活動を行っています。

そのような中で、鎌倉泉水教会は、他の教会にない悪条件の立地を与えられているのかもしれませんが、しかし、その分特別な伝道の使命を与えられているように思います。鎌倉泉水教会から徒歩圏には約1万人が居住していますが、当教会の会員はまだ50名に満たないのです。キリスト者率を1%としても、あと50名はまだ伝道されていないことになります。まずは、その50人を目標に伝道しています。(もちろん、その先も目指します!)

～教会の中のこと～

05年10月現在、会員の平均年齢65, 8歳の高齢教会です。小児会員がありません(教会の全歴史で幼児受洗1)。会員の出入りが多いように思います(設立時27, 受洗38, 転入66, 召天33, 転出33)。隠退(初代)牧師が常時礼拝出席されていました(05年9月迄)。

以下は、赴任して来た当初の感想をそのまま述べてみます。

この地で伝道開始して50年近くになりますが、地域に教会の存在があまり知られていませんでした。週報以外の印刷物がありませんでした。個人の信仰の意識は高いのですが、神の民、神の群れという意識はあまりないように思いました。信徒の証の機会がありませんでした。聖書は、一書ごと、また全巻を読まなければならないという強い信仰はありますが、礼拝は説教に集中し、聖礼典の意義が見出されていないように感じられました。週日と聖日の分離というの

わたしの伝道実践

でしょうか、日曜日から日曜日へ、遣わされて帰ってくる、という感覚があまりないように思いました。教会の各組織が上手く機能し合っていないように思いました。「式」「組織」「規則」などの言葉に教会員の抵抗を感じました。

② 実践したこと（新しく始めたこと）

①で述べた現状、感じたことなどから、下記のことを実践しましたので、参考までに挙げてみます。既に失敗に終わったものもありますし、続いているものもあります。

《 宣伝、公告関係 》

・教会案内作成・配布 ・看板を 8 倍の大きさにした。(バスが走っていても字が読める大きさに) ・バス車内アナウンス公告 (1 年だけ) ・ぱど公告 (クリスマス) ・ホームページ開設 ・庭に 4 m の十字架建立 ・チラシのポスティング

《 集会関係 》

・第 3 主日伝道礼拝 (主題説教) ・全家族礼拝 (CS と合同の主日礼拝, 年 3 回) ・CS 教師合同研修会 (年 1 回, 鎌倉教会・片瀬教会) ・CS 合同夏期学校 (鎌倉教会) ・コイノニア (月 1 回, 学び, 祈り, 交わりなどの会) ・聖書輪読会 (週 1) ・家庭集会 (月 1) ・オルガンレッスン (隔月) ・路傍伝道 (中心は信徒の腹話術と紙芝居, 公共の場 2 箇所, 各月 1 回)

《 読み物、刊行物など 》

・教会報発行 (年 2 ～ 3 回) ・CS 通信発行 (毎月) ・伝道礼拝メッセージリーフレット発行 (伝道礼拝実施後) ・葬儀ハンドブック作成, 発行

《 その他 》

・牧会アンケート実施 ・教会員の自宅訪問 ・教会員の記念日カード発送 (誕生日, 受洗記念日) ・年度主題を設ける ・祈りの課題 (通年, 週毎) を週報に掲載 ・役員, CS 教師の任職式 ・役員会冒頭で各会報告 ・葬儀

に関する備え（遺言） ・ CS出席回賞制度 ・ 新来者にお礼状 ・ 来会者（業者、セールス、工事、庭師…なども全て）には、必ずお土産（教会の印刷物）
・ 夏期伝道実習神学生受け入れ ・ 通年神学生支援（計画中）

③ これまでを振り返って

7年半の間に、受洗者6名、召天者8名（05年含む）、葬儀10回、しかし結婚式0回です。高齢教会で、すぐに青年伝道を実践、軌道に乗せることは難しいということがよく分かりました。むしろ差し迫った課題は、高齢者伝道なのです。若者より、高齢者の方が自分の救いの問題が切迫しています。現在は、葬儀＝伝道礼拝、しかも、宣伝しなくても大勢の求道者が集ってくれる大伝道集会として捉え、これを最大限に用いています。しかし、葬儀は準備できません。説教者の実力が問われる時でもあります。普段より会衆は良く聞いてくれる気がします。このチャンスに福音の核心と確信を大胆に語ります。（いい話は必要ないのです。その人の救いを本気で望み、本気で確信して語ることです。）また、教会員が死と葬儀に備えることは、家族に教会の話をする＝伝道するチャンスとなります。そして教会員が死に備えることなしに、葬儀が信仰の証しとなり、伝道場となることはないのです。そこでも伝道は、牧師だけでも信徒だけでも行えない、“教会の業”であることを知らされました。

また、教会の伝道方法の大きな変更として特記すべきは、著名な信仰者を招いての伝道集会を廃止したということです。これは大きな決断だったと思います。「伝道は自力で」を基本に、普段の教会と全く違う雰囲気、人、内容の集会ではなく、「自分も受けたことをあなたがたに伝える」の信仰で、この教会に集う一人一人が証しし伝道することを目指しています。毎月第3主日を伝道礼拝とし、外部説教者ではなく、主任牧師が説教し、さらにそのメッセージをホームページ掲載とパンフレットにし、文書伝道する形で続けています。これまで、信徒の証しとして実現した集会は、40周年の讃美礼拝のみですが、今後この基本姿勢は変えません。

この教会は、歴史の大半を女性教職によって牧会され、形成された教会です。その成長を数字で見る限りにおいては、あまり大きな成長はありません。受洗

わたしの伝道実践

者とはほぼ同じだけの召天者があり、その分多数の転入会者によって、現状を維持しています。それだけ、この地での伝道が困難であるという証しでしょうか。女性教職の限界なののでしょうか？ しかし私は、むしろそれは、まだこちらに努力する余地が残されているということと受け留めています。

与えられた環境と賜物とを賢く用いていけば、まだまだこの教会の伝道は前進する可能性があると思っています。

最後に、伝道者が一番苦悩する「説教」について、これまで私が感じていることを一言述べたいと思います。私には「説教と牧会なのか？」「説教による牧会なのか？」という問いがありました。今は、むしろ「牧会による説教」と表現するのがピッタリとくるように思います。牧師は御言葉を語る＝説教するために遣わされています。しかし、それは説教を聞く者と語る者との生活を離れては実現しません。説教とは、信徒の生活と牧師の生活との中で営まれ、育まれる週ごとに新しくなされる神の御業のように思うのです。

このつたなき奉仕の記録が、少しでも将来の女性教職の歩みの力添えとなれば、幸いに思います。

この機会をお与え下さった東京神学大学に感謝します。そして、こんな私を召してくださる主なる神に心から感謝をささげ、御名をほめたたえます。

鎌倉泉水教会 略年表

- 1955年 2月20日 鎌倉教会の浄明寺地域における第1回伝道集会が平江家において開かれる。以後、平江家で定期集会。
- 1957年 5月 4日 みちる幼稚園を借りて浄明寺土曜学校を開校。
- 1960年 8月13日 銀座教会の一信徒の献金により、現在の土地を与えられる。
 - 〃 6月 同者より、旧家屋を奉献され移築。
 - 〃 10月29日 鎌倉教会の浄明寺伝道所として第1回聖日礼拝、ならびに献堂式を挙げる。
- 1962年 3月25日 鎌倉教会総会にて、浄明寺伝道所の独立を決定し、分籍式

を執行。27名が移籍。

- 1962年 4月 8日 伝道所第1回教会総会。「鎌倉泉水教会」設立を決議。
- 1963年 1月27日 「鎌倉泉水教会」として第2種教会設立式および初代主任
担任教師・森和子牧師就任式
- 1981年 4月19日 鎌倉霊園内に教会墓地を購入。墓地完成礼拝を捧げる。
- 1984年 7月22日 新会堂を献堂
- 1991年 3月31日 森和子牧師退任（その後も鎌倉在住で礼拝出席される）
- ◇ 4月 1日 第二代・山崎正幸牧師着任
- ◇ 11月 山崎正幸牧師 横須賀上町教会代務者に就任
- 1993年 2月27日 ◇ 教区書記に選任される
- ◇ 3月28日 定期教会総会にて礼拝式順変更 主の祈りと交読詩編の位置
を逆にし、聖餐式のある礼拝に限り、教団信仰告白を説
教前に入れる。
- ◇ 8月22日 三十年史発行
- 1994年 9月25日 集会室および牧師館（2階）を新築・奉献
- 1996年 3月24日 山崎正幸牧師退任
- ◇ 4月 1日 第三代・富田颯子牧師着任
- 1997年 3月27日 富田颯子牧師退任 以後1年間無牧
- 1998年 4月 1日 第四代・篠田真紀子伝道師着任
- 2001年 2月24日 ◇ 正教師按手受領
- ◇ 3月 4日 ◇ 牧師による最初の聖餐式
- ◇ 4月 ◇ 聖和学院（逗子）聖書科非常勤講師就任
- 2003年 1月27日 創立40周年
- ◇ 3月 篠田真紀子牧師 聖和学院聖書科非常勤講師退任
- ◇ 5月 ◇ 産休に入る
- ◇ 9月 ◇ 復帰
- 2005年 9月 森和子牧師故郷へお帰りになる。

（しのだ まきこ）